

登別市

登別海岸藻場再生×ブルーカーボン推進事業

事業の 目的と概要

地域の漁業関係者（いぶり中央漁業協同組合および漁業者）などの多様なステークホルダーと連携し「持続可能な循環型藻場再生モデル」の構築を目指す。モニタリングや海藻養殖、新系統種苗の開発といった藻場再生事業、再生藻場の価値化のため商品開発やイベント開催、ブルーカーボンクレジット認証取得調査を行う。また、藻場再生状況、CO2吸収量などの海のマップ化、マップの活用法をワークショップ等にて検討を行う。

登別市の概要

【地域の概要】

1. 全国有数の温泉観光地
登別温泉・カルルス温泉を中心に、地獄谷や大湯沼などの豊かな自然資源があり、9種類の泉質を誇る登別温泉は全国的にも有名。
2. 山と海に囲まれた自然豊かな立地
山間部では酪農が盛んで、「のぼりべつ牛乳」や「のぼりべつ牛乳プリン」など地域ブランドも確立。
3. 多様な海の幸が魅力の漁業地域
登別漁港・鷺別漁港を有し、スケトウダラや毛ガニなど四季折々の水産資源に恵まれている。

【水産業の課題】

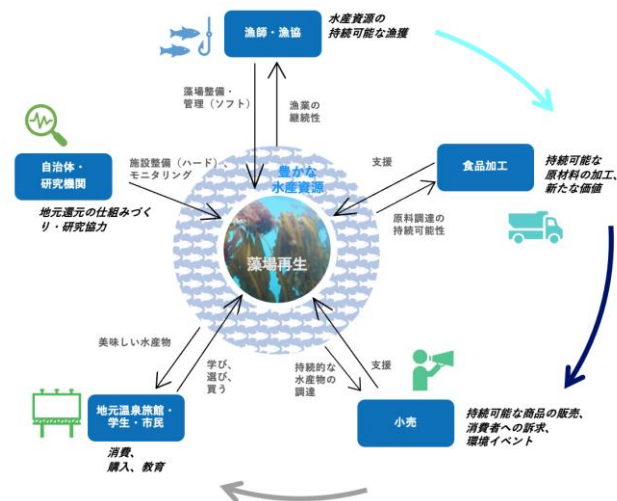
1. 海洋環境の変化による深刻な影響
藻場の減少や海水温の上昇により、スケトウダラやサケなどの漁獲量が減少。北海道全体でも昆布の生産量が過去最低を記録。
2. 藻場の消失が生態系と漁業に悪影響
藻場の減少は、魚介類の産卵・生育環境を悪化させ、水産資源の減少に直結。水産加工業や流通、小売業にも波及。
3. 持続可能な水産業のための藻場再生が急務
水産業と観光業を支える基盤として、藻場の再生とその経済的価値化を進め、再生に資金を還元する仕組みの構築が必要。

持続可能な登別の海づくりに向けたビジョン

【ビジョンの方向性】

1. 自然環境の回復と資源の再生
 - ・藻場の再生を通じて魚介類の産卵・生育環境を改善
 - ・生態系バランスを回復し、豊かな漁場の再構築を目指す
2. 経済・観光との連携による価値の創出
 - ・ブルーカーボンや地域ブランドとして新たな価値化
 - ・藻場の保全と観光（温泉宿連携）をつなぐ地域経済モデルの構築
3. 地域全体で取り組む持続可能な仕組みづくり
 - ・漁業者・企業・学校・市民との協働による再生プロジェクトの推進
 - ・藻場の再生による収益を、再び藻場保全へ循環させる仕組みづくり

【持続可能な循環型藻場再生ビジョンイメージ図】



登別市

登別海岸藻場再生×ブルーカーボン推進事業

主な取り組み内容

藻場再生

- ・モニタリング：現状把握、簡易な藻場調査手法の開発
- ・基質づくり：岩盤清掃等藻場再生に必要な基盤整備
- ・種藻場づくり：母藻供給による藻場の拡大
- ・選抜育種：高水温耐性や成長率の良い新系統種苗の開発



再生藻場の価値化

- ・ブルーカーボン調査：炭素クレジット化に向けた現状把握
- ・商品開発・流通連携：再生藻場産の原料活用（例；市内調理関係者等、学生との連携）
- ・教育・啓発活動：子ども向け環境教育の実施（例；循環型ねんど活用）



海の可視化モデル事業

- ・海のマップ化：藻場再生状況・CO2吸収・生物多様性指標を統合し可視化
- ・参加型ワークショップ：企業ボランティアによる活用検討



本事業実施後に期待される効果

1. 海洋生態系の回復と漁業資源の持続的利用の実現
藻場の再生により、魚介類の生息環境が改善され、安定的な漁業資源の確保が期待される。
2. ストーリー性ある新商品の創出と地域産業の活性化
再生藻場で生産された水産物を活用し、新たな商品開発・流通・加工のサプライチェーンが構築される。
3. ブルーカーボンの価値化による新たな収益源の創出
クレジット化や海の可視化を通じて、低コストでの炭素価値創出やTNFD等への反映が可能となり、事業の持続性が高まる。